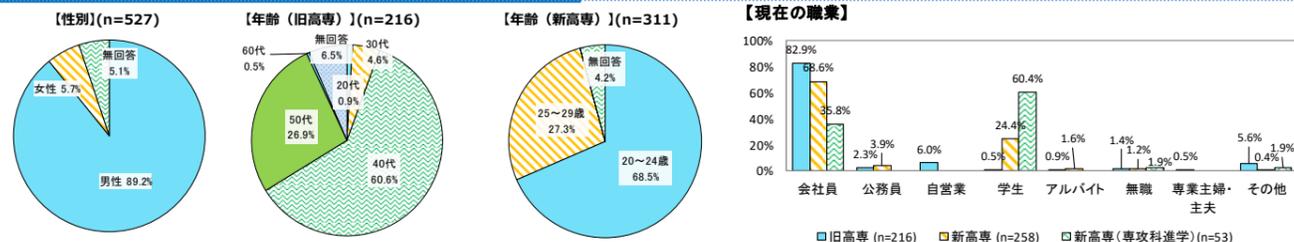


# 「平成 30 年度東京都立産業技術高等専門学校に関する卒業生アンケート調査」 調査結果（概要）

## 調査概要

【調査対象】東京都立産業技術高等専門学校（以下「本校」という。）の統合前の卒業生（以下、「旧高専」とする）（昭和 60 年度～平成 10 年度卒）、統合後の卒業生（以下、「新高専」とする）（平成 22 年～平成 29 年度卒）  
 【調査手法】郵送送付、WEB による回答【発送数、回収結果】有効発送数：3,812、有効回収数：527、回収率：13.8%  
 【旧高専・新高専の回答者割合】  
 旧高専：216 名(41%)、新高専：311 名(59%) 新高専のうち、専攻科への進学者は 53 名(17%)  
 【調査実施期間】平成 30 年 10 月

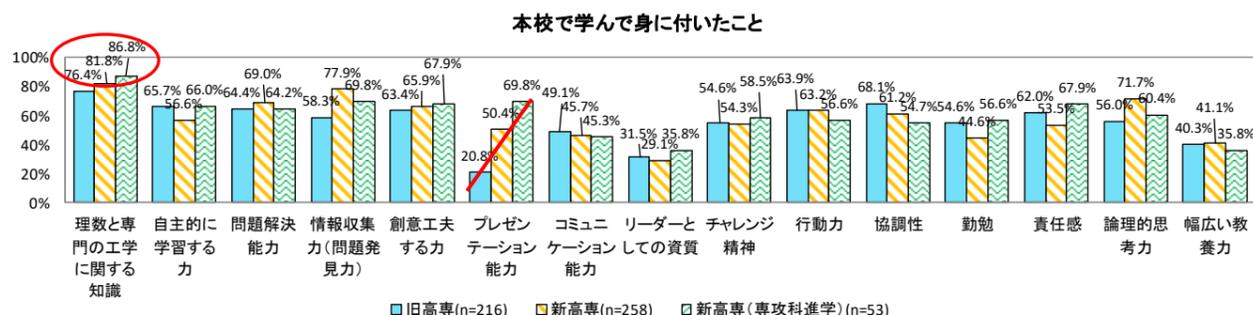
## 回答卒業生の基本プロフィール



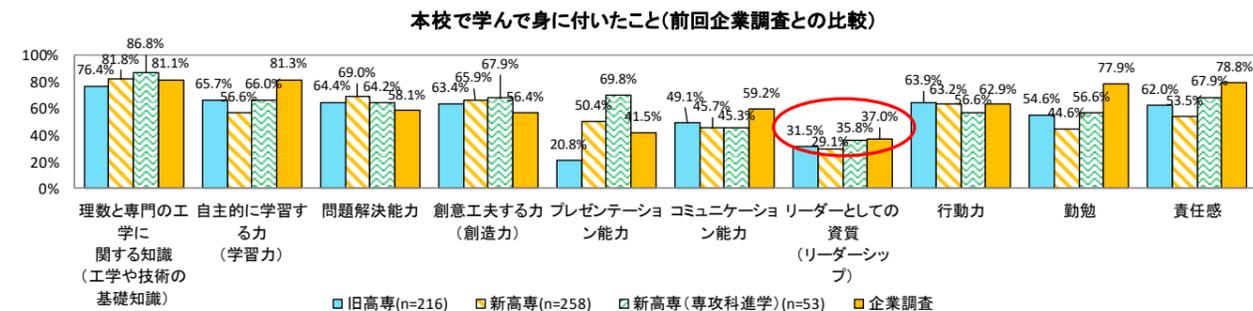
## 調査結果のまとめ・・・本校で身に付けた能力、今後必要となる教育とは

### 本校で身に付けた資質、能力

本校で学んで身に付いたことについて、「十分身に付いた」と「ある程度身に付いた」の合計値をみると、いずれも「理数と専門の工学に関する知識」が最も高い。「プレゼンテーション能力」は新高専(専攻科進学)(69.8%)で特に割合が高く、次いで新高専(50.4%)、旧高専(20.8%)となっている。特に、専攻科については、学会発表等の成果が出ていると言える。

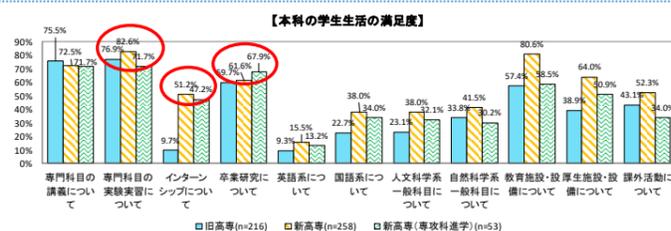


前回企業調査の「本校卒業生についての評価(大いにある+ある)」の割合を、「本校で学んで身に付けたこと」の共通項目と比較すると、全体的に評価は一致する傾向にあるが、「プレゼンテーション能力」については、旧高専、新高専、新高専(専攻科進学)と企業評価には差がある。「リーダーとしての資質」は自己評価、企業評価ともに低い割合になっている。



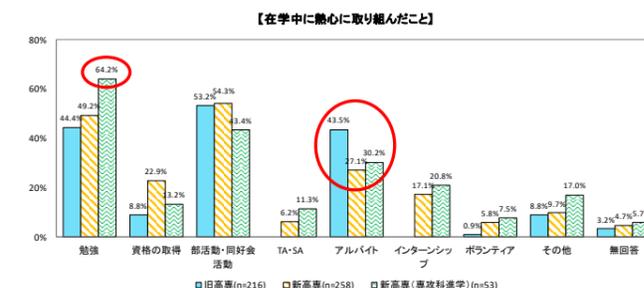
### 本科の学生生活の満足度

本科の学生生活の満足度についてみると、満足の合計(非常に満足している+満足している)が最も高かったのは、「専門科目の実験実習について」で、旧高専(76.9%)、新高専(82.6%)、新高専(専攻科進学)(71.1%)であった。「インターンシップ」、「卒業研究」については新高専のほうが、旧高専よりも満足度が高い。



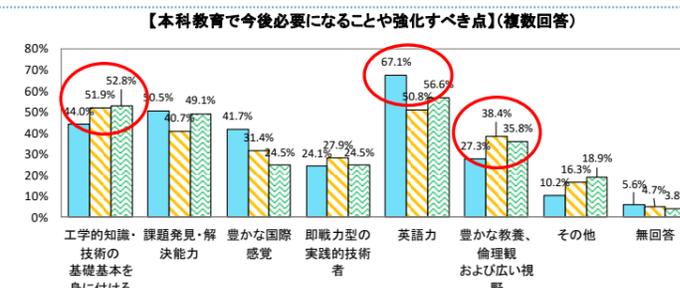
### 在学中に熱心に取り組んだこと

在学中に熱心に取り組んだこととして、旧高専、新高専では「部活動・同好会活動」の割合が約半数で最も高いが、新高専(専攻科進学)は「勉強」の割合が最も高い。前回調査も含めた経年でみると、「アルバイト」の割合は「旧高専」で 43.5%であるのに対し、新高専では 27.1%と低下傾向にあることがわかる。

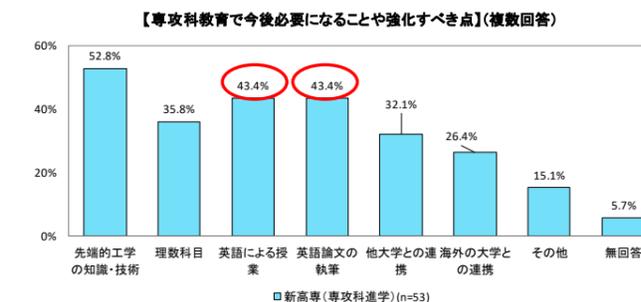


### 卒業生が本校に求める教育

本科教育で今後必要になることや強化すべき点についてみると、旧高専では「英語力(67.1%)」の割合が最も高い。新高専、新高専(専攻科進学)では、「工学的知識・技術の基礎基本を身に付ける」、「豊かな教養、倫理観及び広い視野」を強化すべきと考える割合が旧高専よりも高くなっている。

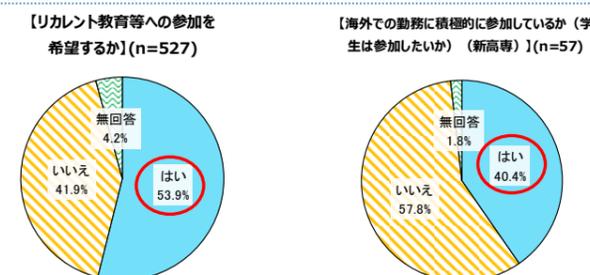


専攻科教育で今後必要になることや強化すべき点について、「先端的工学の知識・技術」が 52.8%と最も割合が高い。次いで、「英語による授業」、「英語論文の執筆」がともに 43.4%と高くなっており、英語に関する教育を重視していることがわかる。



### リカレント教育・国際教育プログラムの必要性

リカレント教育への参加希望についてみると、いずれも半数程度が参加を希望している。  
 新高専では、国際化事業参加者の約 40%が海外での勤務に積極的に参加した(学生は参加したい)と回答している。



- ・旧高専に比べ新高専は、満足度や身に付いた能力が上昇している。
- ・身に付けた能力として、新高専では「プレゼンテーション能力」の割合が高くなっている。
- ・企業による評価と、卒業生による自己評価は比較的一致している。
- ・新高専では旧高専に比べ「インターンシップ」の満足度が高い。
- ・今後求められる教育としては、英語に関する教育を強化するべきと考える割合が高い。
- ・リカレント教育は卒業生からみても必要性が高い。
- ・国際教育プログラム参加者の海外勤務希望者の割合は高い。